

# あんのんえんこう

宰相山 角屋 圓光寺だより

〒五四三・〇〇一三 大阪府大阪市天王寺区玉造本町一三・五  
電話番号、FAX 〇六・六七六一・八二九三

令和三年 六、七、八月合併号 No.88  
寺報 あんのんえんこう  
発行 圓光寺ごほう志会  
執筆 足利 誠正・正往

コロナの中、仏教から学ぶ中道の立場

今の世界、日本を見ていると意見の違いで分断が進んでいるように思います。国内では、時短要請に応じない店に対し銀行融資を制限するような発言もありました。要請に応じないのはそれでは生活ができないからで、国は生活ができるようにするのが先ではないかと思えます。

そういう中でのオリンピック開催でも、競技場エンブレム問題のゴタゴタで開催反対、賛成で国内でも意見が分かれているようです。競技を極めた一流選手の真剣勝負をテレビで見られるのを、このような状況とは別に楽しもうという人。無駄にお金をかけて生活が大変な人もいたりコロナ感染者増加の中でけしからんという人。これほどまで批判の多いオリンピックはなかったように思います、

コロナワクチンを接種するか、しないか。マスクはするべきか、しないべきか、子供はどうすべきか。

コロナワクチンは接種すべきで、打たない人は感染を広めるつもりかという人、ワクチンを接種した国で感染増加、厚生労働省はワクチン接

種は責任はとれない任意としている、PCR検査は多くは擬陽性という人。感染を広めないためにマスクをする、マスクは目が粗くウイルスを通すので無意味、酸素量減少で免疫低下する。

いろんなところで両極端に意見が分かれお互いを非難し合うような雰囲気。それを避けるため多数派に合わしている人。何が言いたいかというと世界的に寛容さが失われていること。

私は自分の考えでワクチンを打つけど、あなたのではないという理由があるのも認めるよ。私は賛成はしないけど、あなたの打つ考えは尊重するよという態度。どんどん寛容さの幅が狭まっているように見えます。

寛容さの幅が広いときは両極端の考えは一部で全体的にグレーな部分もあって「そうはいっても、そういう考えもあるしね」という考えが多数を占め、それは今までの日本の良い面だったと思います。グレーの考えがなくなり右か左かそれ以外は許さない世界というのは歴史を見て最後は戦争になります。寛容さの中道の態度が求められています。

雑阿含経より

修行者らよ。出家者が実践してはならない二つの極端がある。一つはもろもろの欲望において欲楽に耽ることであって、下劣、野卑で凡愚の行いであり、ためにならぬものである。他の一つはみずから苦しめることであって、苦しみであり、ためにならぬものである。真理の体現者はこの両極端に近づかないで、中道をさとしたのである。

お互いが主張する「正しさ」を見るのではなく、なぜそうなるのか、なってきたのか。どんな立場にも立たないお互いの背景を見る。そして全体を理解していく。欲であったり、正義であったり、社会的立場であったり。

マスコミ報道には中道な立場が求められます。そのなかで、意見が違ふ専門家を出して国民がしっかりと判断できるように放送するべきで、それを見て個々が判断する。そして個々の判断に対して国民は寛容さでその判断を尊重する。イソップ物語の北風と太陽。お互いが風を吹かせれば、それぞれ自分の意見に固執するだけです。今までの日本国の寛容さの「太陽」の心が必要です。それが対立のない世界を作ります。

## お盆のお話

6, 7月ごろは梅雨の季節。地面には小動物のいのちがうごめく頃です。歩き回って踏みつけないように僧侶たちは道端で勉強会を行うように注意をされました。昔のこのような勉強会を安居（あんご）と呼びます。

孟蘭盆会と呼ばれる行事のお話です。

お釈迦様が舎衛国の祇樹給孤独園（ぎじゆきつこどくおん）で安居をされていたとき、目連尊者が顔色を変えて慌てて相談にきました。目連尊者はお釈迦様の弟子の中でも十指に入る人で神通力第一といわれる人でした。その目連尊者を育ててくれた素晴らしい母は、きつといいころにいるだろうと思ひ、天上界から探したが見当たりません。やっと見つけたら餓鬼道に落ちて苦しんでいる母を見つけたのです。

そこで母にご飯をささげると、口に入る前にご飯は火に変わってしまった食べられません。目連尊者は大声で泣きますがどうもできません。それでお釈迦様のもとに来たのです。一部始終を話し、餓鬼道からどうしたら救えるか、と教えを乞うたのでした。

お釈迦様は、「目連よ、あなたの母は罪が非常に重いので、目連一人の力ではどうすることも

できない。諸天善神もよく目連の孝順の心を知ってますがどうにもできないのです。ただ十万の僧侶にお力を借りるほかに、母を救う方法はないのだよ。それで安居の終わった日に、十万の衆僧に百味の飲食と臥具の供養をきなさい。されば、現在の父母、七世の父母、六親眷族らが苦しみから逃れ解脱することができよう。」とおさとしになりました。これが孟蘭盆会の起源となった孟蘭盆経の前半の部分です。一人の子を育てるにはどうしても餓鬼道に落ちねば育てられない。そこに母の愛のありがたさがあり同時に、落ちた母を子のまごころでは救えない悲しさを知るということです。そして亡き人が命に代えても私に伝えようとなさったことを聞かせていただくことだとと言えるでしょう

「自分の殻に閉じこもらず

穏やかで優しい顔と言葉とを大切にします

微笑みかける仏さまのように

一貪り怒り愚かさにならず

しなやかな心と振る舞いを心がけます

心安らかな仏さまのように

一自分だけを大事にすることなく

人と喜びや悲しみを分かち合います

慈悲に満ち満ちた仏さまのように

一生かかされていることに気づき

日々に精いっぱい努めます

人々の救いに尽くす仏さまのように

自己免疫力を上げるビワの葉茶

「大薬王樹」と言われるビワ。江戸時代の薬屋では、店の前に釜を出してビワ薬湯を飲ませたり、ビワの薬効は昔から知られていました。庭にビワを植えると病人が出るという話も聞きますが、それはビワの薬効を求めて病人が求めてくるという意味だそうです。

ビワは生命力が旺盛で種が落ちればどこからでも生えてきます。自然のままの境内の庭にも生えてきて、採取用を選定しています。乾燥させ煮出して飲むだけです。

（効能）抗菌作用、健胃、利尿、喘息、気管支炎、風邪

日干しした種は、漢方薬のビワ仁。アルコールにつけて1, 2個食べます。（注意）農林水産省からビワの種には毒があるので食べないようにと通達があります。漢方薬として長年認められているので個人の判断で利用しています。

